

第8期

地域de子育て応援キャンペーン

どどももっしと!

4

April 2015 VOL.1

### モノとの付き合い方を考える

実は子どもに「片付けなさい」って言う前に、おうちの人がしておくことはたくさんあるんです。「整理」は unnecessary な物を取り除くことであり、「収納」とは別の作業。お片付けの最初のステップは「モノとの付き合い方を考える」ことから始まります。

小さいうちから自分に必要な物は何れかを選ぶ訓練をしていると、自然と「心のものさし」が育ちます。それは、モノがたくさんある時代で育つ子どもたちにとって大切な力。モノとの付き合い方を考える上でも、家庭はスタート地点です。必要かどうかだけでなく、「好きな順に並べてみて」とか、「どんなところが好き?」と聞いてみて、気持ちをくみながら一緒にやってみるといいと思います。



### しまう場所

子どもが使う場所のそばに、モノの指定席をつくってあげましょう。収納場所を決めたら、ラベルシールなどで「表札」をつくっています。場所を分かりやすくしていると、誰でも片付けられますし、次に使うときに行方不明がなくなります。はさみやのりなど工作で使う物や、お絵かきセットの色鉛筆と画用紙など、合わせて使うモノは一緒の場所があると便利。いずれも、お子さんの遊ぶ様子をよく見て、まとまって置いていた方がいい道具類や収納場所を考えると、指定席が見えてくると思います。



## 自分で進んで片付ける きれいな部屋のつくり方

新年度も始まり、新しい持ち物も増える季節。散らかった部屋を見て、「つい」片付けなさい!と怒っていませんか。家族で一番長い時間を過ごす家だから、いつもきれいにしてくださいけれど、なかなか理想通りにはいきません。親子のためのお片付けサポート」を行っている整理収納アドバイザーの藤原友子さん(別府市)に子どもが片付けるようになる部屋のつくり方を聞きました。



ふじわらゆうこ  
藤原友子さん

1975年生まれ、別府市在住。整理収納アドバイザー1級、NPO法人ハウスケーピング協会認定講師。快適生活応援団を主宰し、主に子育て世代に向けた整理収納アドバイスやセミナーなどを展開している。  
<http://www.yu-mama.com/>

未就学児がいるご家庭はリビングが生活スペースであることが多いと思います。わが家は小学4年生から幼稚園児までの子どもが4人いますが、やっぱり親の目が届くリビングが生活の中心。おもちゃも全てリビングダイニングに収納しています。家族が集まるリビングは子どもが公共マナーを学ぶ初めての場所であり、モノとの付き合い方を教えてあげられる場所。いろんなおうちを見る中で、きれいに片付いたお部屋を見ると家族が生き生きしてくることを実感しています。新しい生活が始まる春は、あらためて身の回りのモノに向き合うにもいい季節です。

### 持ちモノの量を考える

基本は、管理できるだけの量を持つこと。年齢にもよりますが、子どもが自分で管理できる量はほんのわずかです。量を管理するには、おもちゃの与え方も大切。おもちゃはリビングに備え付けの戸棚とキッチンそばにある作業台に収める量で決めていきます。お誕生日やクリスマスでプレゼントするときも、おもちゃの棚を見ながら「何が足りないかな?」と聞いて、子どもに決めさせています。いろんな種類のおもちゃがありますが、親子で長く使えるモノを選んで「うちはこれ」と決めるのがお勧め。そこから子どもがいろんな遊び方を発見していきます。



### 声掛け

子どもが片付けるには、声掛けのタイミングもあります。遊びに夢中時にはなかなかできませんよね。一つ出したら一つしまう人とも思いますが、子どもの興味はどんどん移っていくもの。ある程度は諦めて、遊ばせてあげましょう。声を掛けるには、例えば「〇時に出掛けるから片付けようか」などと、ちょっと早めに声掛けしてあげると、子どもも片付けやすくなりますし、一日のどこかで片付ける時間をつくとお母さんたちもほっとできると思います。

